

社団法人心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>山崎晃男 (やまさきてるお)</p>	<p>所属</p>	<p>大阪樟蔭女子大学人間科学部</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>聴覚心理学研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 8 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 27 名 (うち認定心理士 1 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>「音と感情」というテーマで、日本心理学会第 72 回大会内のワークショップとして平成 20 年に研究集会を行った。実施内容は以下のとおりである。</p> <p>テーマ：音と感情 司会者：羽藤律 (桐朋学園芸術短期大学) 話題提供者：中村真 (宇都宮大学) 話題提供者：桑野園子 (大阪大学) 話題提供者：重野純 (青山学院大学文学部) 話題提供者：山崎晃男 (大阪樟蔭女子大学) 指定討論者：谷口高士 (大阪学院大学)</p> <p>内容要旨： 聴覚は感情を喚起する重要なチャンネルであるが、感情という視点から音を取り上げた研究はこれまで比較的少ない。聴覚は外界に対して常に開かれており、人間はまず音を通じて外界の変化を感知することが多い。したがって、音はしばしば驚愕や恐怖といった感情を引き起こす。また、聴覚が常に開かれているがゆえに、嫌悪や怒りといった否定的感情をもたらす騒音は深刻な問題となる。一方、音楽の重要な機能は喜びや安らぎ、あるいは高揚といった肯定的感情を誘発することにある。さらに、音声はパラ言語情報によって様々な感情を伝達することができる。このように、音は様々な場面で感情と密接な関わりをもつ。</p> <p>こうした音と感情との結びつきについて、話題提供者がそれぞれ感情心理学、騒音研究、音声認知研究、音楽心理学の立場から話題を提供し、指定討論者およびフロアの参加者を交えて今後の研究の方向性について活発に議論を行った。</p> <p>次年度には、「音と安全」をテーマに、様々な場面での音と安全との関わりを検討する研究集会の開催を計画している。</p>		